

令和 6 年 6 月 26 日現在

機関番号：62608

研究種目：基盤研究(B)（一般）

研究期間：2020～2022

課題番号：20H01238

研究課題名（和文）中近世日本の画題生成における明代出版文化の受容と展開に関する総合的研究

研究課題名（英文）A Comprehensive Study on the Reception and Development of Ming Dynasty
Publishing Culture in the Generation of Painting Titles in Medieval and Early
Modern Japan

研究代表者

齋藤 真麻理（Maori, SAITO）

国文学研究資料館・研究部・教授

研究者番号：50280532

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 12,600,000円

研究成果の概要（和文）：これまで個別に研究が行われてきた中近世日本の絵巻や絵画資料と、狩野派の絵画・画論を結び、日本文学、歴史学、美術史学、日本漢文学等の観点から多面的な分析を行った結果、その表象文化の基盤を形成した学芸の実態と、大名家を取り巻く知識の蓄積・伝播の具体相を解明することができた。とりわけ、17世紀狩野派内で陸続と制作された「戯画図巻」に焦点を絞り、稀少な伝本4点を含めた全容と研究成果をフルカラーで出版したことは特筆される。「戯画図巻」は中近世日本における画題生成の一つの達成を示す重要作であり、本研究によって、画題・画論・学芸史を結ぶ研究の意義と新たな手法、具体的成果を提示することができた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

中近世日本の表象文化をめぐり、個別の事例研究に傾いたこれまでの研究動向を省みて、奈良絵本・絵巻等と狩野派の営為とを連結し、総体としてその意義を浮かび上がらせた点にまず学術的意義が認められる。とくに研究の手簿であった狩野派の「戯画」に着目し、その全容を明らかにするとともに、狩野派絵師の活動や、中国明代の文物の受容とその日本の変容、また江戸時代前期における黄檗文化の摂取と大名家のネットワークを合わせ見ること、各画題に内包された文学性と時代性を解明した点は、東アジアにおける表象文化の交流および出版文化研究にも資する成果として社会的意義が大きい。

研究成果の概要（英文）：Our project sought to link the picture scrolls and pictorial materials of medieval and early modern Japan with the paintings and painting theory of the Kano school. By analyzing these materials from multiple perspectives, including Japanese literature, history, art history, and Japanese and Chinese literature, we aimed to elucidate the actual conditions of the arts and sciences that formed the foundation of representational culture. Additionally, we examined the specific aspects of the accumulation and dissemination of knowledge within the daimyo family. Of particular significance was the publication in full color of the complete picture and research results, including four rare copies, focusing on the “caricature scrolls” produced successively within the Kano school in the 17th century. This project enabled us to present the significance, innovative methodologies, and concrete research findings that link painting subjects, painting theory, and scholarly history.

研究分野：日本古典文学

キーワード：画題 狩野派 戯画 奈良絵本 明代出版文化 近世初期風俗画 林家

1. 研究開始当初の背景

中近世日本の文芸の特色は、多ジャンルの作品が絵本・絵巻として享受され、挿絵を伴う多様な明刊本が陸続と舶載されるなど、文字と絵画の交響によって形成された点にある。とくに奈良絵本と総称される作品群の多くは制作実態が不明であるため、従来は文学および文献学的手法を基盤とし、写本間の比較検討や作品分析、詞書の筆跡鑑定等による分類と絵草紙屋に関する検討が中心であった。中には狩野派絵師による作例も知られるが、狩野派の営為もまた個別の事例研究に留まる傾向にあった。また、絵師の諸派内で蓄積され、手控えの役割を果たした粉本群はほぼ未着手の状態であり、そこに蓄積された知識がどのように画題継承や次なる作品生成に活用されたのかという議論は十分になされていなかった。

従って、多様な文芸と絵画資料を結び、その生成享受に関与したであろう大名家を中心とする知識階級のネットワークを見渡し、多彩な表象文化の実態を「画題」という観点から問うことこそ、新たな研究の視座を獲得するために必須の重要課題であるとの認識に至った。

2. 研究の目的

先述のとおり、本研究は個別の事例研究がなされてきた奈良絵本等の絵入り写本・絵巻と狩野派の絵画・画論とを俯瞰的に把握し、中国明代の出版文化の受容と日本の変容、展開などを視野に、画題の生成・享受史を構築し、新たな研究の視座を獲得することを目的とする。

狩野派の絵画については、研究が手薄で、奈良絵本等とも関連性が推測される「戯画」に焦点を絞る。文学・歴史学・美術史学・日本漢文学等の諸分野から多面的な調査研究を行い、表象の基盤となった学芸の実態を解明するとともに、大名家を取り巻く知識の蓄積や伝播の諸相の解明に繋げたい。

3. 研究の方法

前接する科研費研究・基盤研究C「中近世日本における画題享受史の構築」(2017～2019年度・研究代表者：齋藤真麻理)が蓄積した調査データを活用しながら、「1. 故事人物の画題研究」「2. 江戸初期風俗・風景の画題研究」「3. 画論研究」の3点を柱に据えた。3者は密接に関連することから、緩やかな目安として分担を割り振り、有機的な接合を意識しつつ研究を進めた。成果は各自が論文等によって公刊し、最終年度には17世紀狩野派が制作した「戯画図巻」を画題生成の一つの達成点として捉え、研究組織全員によって考究を進め、代表者の齋藤が総括して成果を出版することとした。

1. 故事人物の画題研究

(1) 狩野派の戯画の研究(齋藤真麻理): 前接の科研費研究で着手した17世紀狩野派の「戯画図巻」研究を故事人物の画題研究として発展させつつ、諸本の調査データを研究分担者に提供し、その手法を分析し、画題生成の様態を考究する。とくに現段階で最古の本画『異代同戯図』が狩野昌運筆であることから、昌運筆『卜養狂歌絵巻』等も視野に入れて諸作品を探索し、「戯画図巻」の表現手法や享受文学圏を解明する。

(2) 文人・仙人画題の研究(門脇むつみ・山本嘉孝): 明代の士大夫・文人の世界観が17世紀日本における狩野派の作画・画題に及ぼした作用について検討する。明代に出版された随筆や画譜には、唐土の士大夫・文人の理想とした生き方が詳述・図示されていることから、明刊本やその和刻本が狩野派周辺でいかに受容されたかを実証的に調査、とくに山水画に焦点を当て、隠逸思想の視覚化の過程を明らかにする。延いては、17世紀に林家をはじめとする儒者の関与によって創始された画題、創始という活動そのものの検討へ展開させる。

2. 江戸初期風俗・風景の画題研究

(1) 海道と都市表象(黒田智): 歴史図像学および肖像論等の研究手法の上に、江戸初期風俗画等をめぐり、近年、議論が活発化している環境史の観点を加えて考察を進める。中近世日本には多様な風俗・風景画が誕生し、港湾、湖、河川、運河など水辺描写に紙幅を費やす例が散見する。時代性を顧みれば、江戸初期に東廻海運、寛文12年(1672)に西廻海運が確立され、いわば「海運・海道の時代」に入るのであり、画題生成とこのような時代的特質を合わせ見て考究を進める。

(2) 年中行事・月次図と事物起源譚の研究(齊藤研一・糸汐里): 年中行事や遊び、子ども、産業の表象など、季節と人物表象に関する画題を中心に考察を行う。事物起源を語る言説や諸芸の伝書、民間伝承、諺等にも目配りし、相互補完的に画題研究へ繋げる。

3. 画論研究(研究組織全員): 五山文学との関連なども踏まえながら、画題と具体的作例との比較検討を通して画論との位置関係の検証を進める。書物の書写と学問形成の関係性や、古典学の観点からも研究を推進する。

なお、井田太郎氏(近畿大学教授)に研究協力者を依頼、「戯画図巻」研究へ参加を得た。

4. 研究成果

先述のとおり、画題・画論の観点から、戯画や、画風を見定めがたい奈良絵本等の作品群に光を当て、明代の文物の受容を一つの視座として分析した。その結果、中近世日本の表象文化の中にこれらを定位し、歴史的・文化史的意義を検証する視点と研究手法を獲得し、新たな視座を拓くことに繋がった。本研究が実践した文学・歴史学・美術史、日本漢文学の研究者による表象文化の多角的な研究手法は、今後の学際的な表象研究のモデル・ケースとなる可能性がある。成果は次項「主な発表論文等」に記載のとおりであるが、特筆しておきたいのは、中近世日本における画題生成の一つの達成として17世紀狩野派の「戯画図巻」に焦点を絞り、『「戯画図巻」の世界 競う神仏、遊ぶ賢人』(齋藤真麻理編著、KADOKAWA、2024年3月)をフルカラーで出版した成果である。現時点で最古の本画である福岡市美術館本・國學院大學本(狩野昌運筆)がツレであることを齋藤が発見したことから、本書第1部の巻頭に上記2本の全図を配し、フランス国立ギメ美術館本(狩野為信筆・本画)、貴重な伝来情報を持つ香雪美術館本(河鍋暁斎旧蔵「戯画図巻」・伝狩野探幽・模本)の全図を加え、計10名の執筆陣による全場面解説を収録した。執筆陣は研究組織の計7名およびゲストスピーカー3名、即ち「戯画図巻」の所蔵機関・所蔵者である勝盛典子氏(前香雪美術

館長) 大谷節子氏(成城大学教授) 加藤祥平氏(徳川美術館学芸員)である。ここに初めて「戯画図巻」の全容が公開され、分析が行われた。本書第2部には論文9本、全体にコラム5本を配して、本作の魅力と研究上の価値を一般読者にも分かりやすく伝える工夫を凝らした。「戯画図巻」に集約された画題生成・享受の諸相が先行絵巻や近世初期風俗画、室町物語、芸能、林家の学芸、民間信仰、黄檗美術等との関連性から浮かび上がり、かつ、大名家のネットワークや武家階級の釣魚ブームなどの当代性も明らかとなった。末尾には諸本14本の書誌情報や場面一覧等を収録し、今後の研究資源として広く提供した。

第1部「戯画図巻」をひらく

全図解説 狩野昌運筆『異代同戯図』(福岡市美術館蔵・國學院大學図書館蔵)

コラム 江戸の武士と釣りブーム(黒田智)

全図解説 狩野為信筆『戯画図巻』(フランス国立ギメ東洋美術館蔵)

コラム 「戯画図巻」をめぐる狩野派の絵師たち(加藤祥平)

全図解説 伝狩野探幽筆『戯画図巻』(香雪美術館蔵)

コラム 河鍋暁斎が愛した『探幽狂画』 香雪本(勝盛典子)

第2部「戯画図巻」をよむ

第一章 構想と方法

「戯画図巻」のこころ 文脈・文体・圏域(齋藤真麻理)

清明の田鼠、尻鞘の河豚 「戯画図巻」のなかの歳時(黒田智)

コラム 英一蝶と江戸狩野派(井田太郎)

第二章 素材と背景

仁王と地蔵の相撲を読む 『曾我物語』『武家相撲絵巻』を手がかりに(糸汐里)

「戯画図巻」をとりまく老荘思想 林家の漢詩文に見る風神と七福神(山本嘉孝)

カニが雷神を挟む、カマキリが雷神に挑む 諺で読む「戯画図巻」(斉藤研一)

第三章 系譜と展開

「戯画図巻」の誕生 御抱え絵師・狩野探幽をめぐる(門脇むつみ)

加筆される機智 異本「戯画図巻」の生成(大谷節子)

「戯画図巻」を再考する 徳川本を中心に(加藤祥平)

コラム 狩野派がつなく「戯画図巻」の系譜(勝盛典子)

諸本リスト

場面一覧表

主要参考文献

以上、「戯画図巻」を文芸と画題の結節点として見出し、画題に内包される文学性と時代性を浮き彫りにした。また、粉本・模本等への着眼から、希有の規模と歴史を誇った狩野派の絵師集団が画題継承の中で共有した思想についても研究の端緒を拓いた。この課題は後接の科研費研究等により、さらに掘り下げる予定である。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計16件（うち査読付論文 4件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 10件）

1. 著者名 齋藤真麻理	4. 巻 42
2. 論文標題 十七世紀狩野派の「戯画図巻」 諸本と点描	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 調査研究報告	6. 最初と最後の頁 89-122
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 黒田智	4. 巻 41
2. 論文標題 小松市称名寺所蔵『烏兔記』（明和六年九月～十一月十六日）	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 人間社会環境研究	6. 最初と最後の頁 95-111
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 門脇むつみ	4. 巻 62
2. 論文標題 若冲画賛の研究 竹図・海老図・鯉図	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 大阪大学大学院文学研究科紀要	6. 最初と最後の頁 93-144
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.18910/87428	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 齋藤真麻理	4. 巻 41
2. 論文標題 東京大学総合図書館蔵『山海異形』について	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 国文学研究資料館調査研究報告	6. 最初と最後の頁 177-196
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 齋藤真麻理	4. 巻 47
2. 論文標題 『大黒舞』小考	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 国文学研究資料館紀要 文学研究篇	6. 最初と最後の頁 97-146
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 齋藤真麻理	4. 巻 4
2. 論文標題 Tsukumogami emaki and Urban Spaces	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Studies in Japanese Literature and Culture	6. 最初と最後の頁 147-151
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.7221/sjlc04.147.0	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 齋藤真麻理	4. 巻 255
2. 論文標題 奈良絵本と『徒然草』: ジャンルを往還するメディア	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 アジア遊学	6. 最初と最後の頁 62-68
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小西洋子・木越隆三・黒田智・室山孝・渡貫多聞	4. 巻 39
2. 論文標題 資料紹介 小松市称名寺所蔵『烏兔記』(明和六年)七月二十三日~八月三十日	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 人間社会環境研究	6. 最初と最後の頁 139-153
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.24517/00064105	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 黒田智	4. 巻 2020年度前期号
2. 論文標題 鳥飼汐干瀧の先懸	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 『中学校社会科のしおり』	6. 最初と最後の頁 24-25
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 山本嘉孝	4. 巻 261
2. 論文標題 近世日本における『蒙求』の音声化 漢字音と連続性	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 アジア遊学	6. 最初と最後の頁 143-158
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 糸汐里	4. 巻 69
2. 論文標題 広島県立文書館寄託尼子家文書蔵「常盤之前鞍馬問答」	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 伝承文学研究	6. 最初と最後の頁 80-90
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 糸汐里	4. 巻 47
2. 論文標題 国文学研究資料館蔵「たかだちおち」解題・翻刻	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 国文学研究資料館研究紀要文学研究篇	6. 最初と最後の頁 173-206
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 齊藤研一	4. 巻 144
2. 論文標題 イズメ 中世末期の風俗図屏風に描かれた育児用具	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 立正大学文学部論叢	6. 最初と最後の頁 25-48
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 齋藤真麻理	4. 巻 68
2. 論文標題 酒呑童子絵の水脈－弥勒信仰と物語の圏域－	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 中世文学	6. 最初と最後の頁 24-34
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 齋藤真麻理	4. 巻 44
2. 論文標題 麻布一本松狩野家資料とその周辺	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 国文学研究資料館調査研究報告	6. 最初と最後の頁 343-362
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 山本嘉孝	4. 巻 1
2. 論文標題 古人になぞらえる－近世日本漢詩文作者の自己像と擬古	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 國文論叢別冊 (電子版)	6. 最初と最後の頁 17-23
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.24546/0100483226	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

〔学会発表〕 計6件（うち招待講演 3件 / うち国際学会 3件）

1. 発表者名 齋藤真麻理
2. 発表標題 慈円詠とその享受 室町期天台寺院の学芸を起点として
3. 学会等名 慈円学会（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 山本嘉孝
2. 発表標題 Early Edo Antiquarianism: Hayashi Gaho 's Imitation of Heian Court kanshi
3. 学会等名 EAS Conference 2021 (Virtual/オンライン)2021年8月25日（国際学会）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 黒田智
2. 発表標題 絵画史料の読み方 肖像画の髭と年齢
3. 学会等名 国文学研究資料館・北京外国語大学日本学研究センター「奈良絵本・絵巻・肖像画 図像学へのアプローチ」（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 黒田智
2. 発表標題 苗加次郎右衛門の怪力譚
3. 学会等名 第77回砺波散村地域研究所例会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 山本嘉孝
2. 発表標題 Early Edo Antiquarianism: Hayashi Gaho's Imitation of Heian Court kanshi
3. 学会等名 ヨーロッパ日本研究協会 (European Association of Japanese Studies) 2021年 国際会議 (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 齋藤真麻理
2. 発表標題 十七世紀狩野派の「戯画図巻」－画題と神仏－
3. 学会等名 伝承文学研究会令和5年度大会シンポジウム「キャラクター化する神仏」(招待講演)
4. 発表年 2023年

〔図書〕 計8件

1. 著者名 齋藤真麻理	4. 発行年 2022年
2. 出版社 平凡社	5. 総ページ数 120
3. 書名 妖怪たちの秘密基地 - つくもがみの時空	

1. 著者名 山本嘉孝	4. 発行年 2021年
2. 出版社 名古屋大学出版会	5. 総ページ数 440
3. 書名 詩文と経世 幕府儒臣の十八世紀	

1. 著者名 黒田智	4. 発行年 2021年
2. 出版社 吉川弘文館	5. 総ページ数 332
3. 書名 たたかう神仏の画像学：勝軍地蔵と中世社会	

1. 著者名 荒木浩・齋藤真麻理ほか	4. 発行年 2020年
2. 出版社 文学通信	5. 総ページ数 871
3. 書名 古典の未来学	

1. 著者名 齋藤真麻理ほか	4. 発行年 2021年
2. 出版社 勉誠出版	5. 総ページ数 193
3. 書名 東アジアにおける知の往還	

1. 著者名 国文学研究資料館・高麗大学校グローバル日本研究院（齋藤真麻理ほか）	4. 発行年 2021年
2. 出版社 亦楽出版（韓国）	5. 総ページ数 332
3. 書名 東アジアにおける知識の交流（ハングル）	

1. 著者名 方法論懇話会編（黒田智ほか）	4. 発行年 2020年
2. 出版社 森話社	5. 総ページ数 336
3. 書名 療法としての歴史 知	

1. 著者名 齋藤真麻理（編著）、黒田智、斉藤研一、門脇むつみ、井田太郎、山本嘉孝、桑汐里、勝盛典子、大谷節子、加藤祥平	4. 発行年 2024年
2. 出版社 KADOKAWA	5. 総ページ数 160
3. 書名 「戯画図巻」の世界 競う神仏、遊ぶ賢人	

〔産業財産権〕

〔その他〕

第9回日本古典籍セミナー（国文学研究資料館・北京外国語大学北京日本文学研究センター共催。2021年2月27日オンライン開催。齋藤真麻理・張龍妹教授による企画）において、黒田智「絵画史料の読み方 肖像画の髭と年齢」の講演を実施した。

6. 研究組織			
	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	門脇 むつみ (KADOWAKI MUTSUMI) (00406779)	大阪大学・文学研究科・准教授 (14401)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	山本 嘉孝 (YAMAMOTO YOSHITAKA) (40783626)	国文学研究資料館・研究部・准教授 (62608)	
研究分担者	条 汐里 (KUME SHIORI) (50838050)	神奈川大学・国際日本学部・助教 (62608)	
研究分担者	黒田 智 (KURODA SATOSHI) (70468875)	早稲田大学・社会科学総合学術院・教授 (13301)	
研究分担者	齊藤 研一 (SAITO KEN'ICHI) (80846410)	立正大学・文学部・准教授 (32687)	

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	井田 太郎 (IDA TARO)		

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関